国指定史跡　西南戦争遺跡　史跡指定記念

小学5・6年生用

西南戦争の地をたどろう

植木・玉東

植木町・玉東町西南戦争遺跡群連携保存活用協議会

植木・玉東

西南戦争遺跡イラストマップ

もくじ

■ 西南戦争遺跡イラストマップ …… 1
■ ふるさとで起こった西南戦争について知ろう …… 3
■ 西南戦争のはじまり …… 5
■ なぜ植木・玉東が戦場となったのだろう …… 7
■ 田原坂・二俣の戦い …… 9
■ その後の日本はどうなったんだろう …… 14
■ 私たちにできること …… 15

A B C D 1 2 3

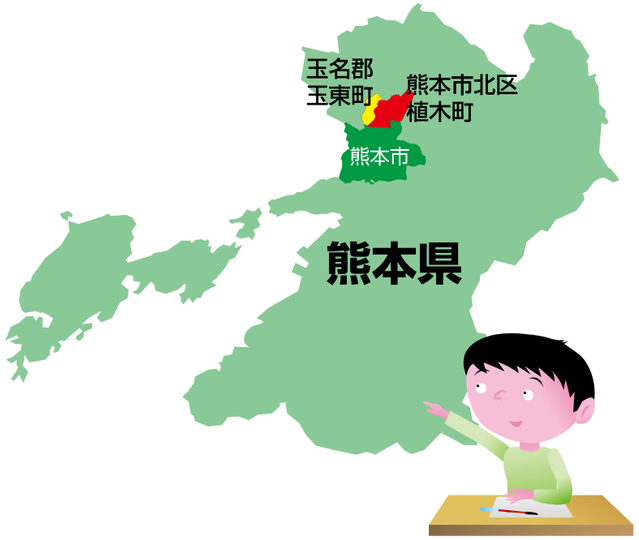
木葉山 286
金比羅山 263
至山鹿
至菊水I.C
平尾観音
平尾山 216
植木I.C
味取観音堂
山頭火句碑
岩野山 218
宇蘇浦官軍墓地
有栖川宮督戦の地
陣内公園
徳成寺
玉東町役場
上木葉官軍本営跡
正念寺
木葉小学校
薩軍砲台跡
稲佐廃寺跡
乃木希典奮戦の地
木葉猿窯元
もっとす猿窯元
玉東局
興隆寺
高月官軍墓地
田原坂攻撃
官軍第一線の碑
豊岡眼鏡橋
一の坂・二の坂・三の坂
中谷川
浦田川
田原熊野座神社
谷村計介之碑
崇烈碑
田原坂公園
植木町田原坂資料館
田原小学校
七国神社
小野泉水公園
至玉名
ふれあいの丘
中央公民館
玉東中学校
桜田惣四郎辞世詩碑（熊本隊参謀）
武道館
九州新幹線トンネル
白木川
木葉川
二俣瓜生田官軍砲台跡
官軍本営出張所跡
二俣古閑官軍砲台跡
山北八幡宮仁王像
山北局
JAたまな玉東支所
七本官軍墓地
北本柿木台場薩軍墓地
鞍掛簡易郵便局
五霊中学校
熊本市北区役所
熊本市立植木病院
薩軍弾薬庫跡
千本桜・乃木大将記念碑
植木学校記念碑
仁連塔神社
交番
植木小学校
植木局
鹿南中学校
滴水官軍本営跡
滴水神社
滴水の大いちょう
薩軍兵站の地
横平山 144
横平山戦跡（公園）
薩軍三勇士の墓
山北小学校
年の神公園（水源）
白山宮
西安寺跡
西安寺五輪塔群
九州新幹線トンネル
つくば熊本自動車道
植木天満宮
向坂緒戦の地
佛厳寺
桜井小学校
西原製鉄遺跡
菱形の池
菱形八幡宮
河原立薩軍墓地
菱形小学校
田原坂トンネル
河原林少尉戦死の地
山頭遺跡
荻迫柿木台場薩軍美少年の墓
荻迫神社
県警交通機動隊
向坂官軍墓地（明徳官軍墓地）
原倉西官軍砲台跡
立岩砲台跡
円台寺薬師堂
円台寺磨崖仏群
半高山戦跡（公園）
半高山 294
東山公民館
吉次峠戦跡（公園）（佐々友房の詩碑）
篠原国幹戦没の地
うえき
薩軍病院跡
山県有朋歌碑
笹尾のシダレ桜
熊本隊本営跡
薩軍本営跡
辺田野熊野座神社（乃木大将詩碑）
寂心さんの樟
金峰山県立公園
▲三ノ岳681
熊本城

■ は、平成25年3月27日 国指定史跡箇所

ふるさとで起こった西南戦争について知ろう

この本の案内

わたしたちが暮らしている町では、昔、戦争が起こりました。西南戦争といいます。それは、今から136年ほど前に起き、たくさんの人たちが参加した戦争でした。植木・玉東は、この戦争の中でも、とても激しい戦いがあった場所で、いろいろなところに、その戦いのあとが残っています。



学ぶための手順

これからふるさとの歴史「西南戦争」を学んでいくために、どのようなことをすればいいのでしょうか。

①西南戦争について知っていることを書いてみよう。
②おじいちゃんやおばあちゃん、周りの人が知っていることを聞いてみよう。
③図書館などで本に書いてあることを調べましょう。
④ふるさとにくわしい人や先生などに聞いてみましょう。
⑤その場所に行ってみよう。
⑥植木・玉東以外に残る西南戦争の跡を調べてみよう。
⑦戦争をくり返さないために何ができるか考え、話し合ってみよう。

これだけでなく、自分で調べて見て、聞いて、考えることが大切です。いろんな情報が集まったらまとめてみるとよいでしょう。

武士の時代から新しい時代へ

西南戦争が起きたころの日本

西南戦争が起こる前の江戸時代の日本は、長い間、将軍を代表として武士と呼ばれる位の人たちが政治を行っていました。政治とは国の大事なことを決めていくことです。その頃の日本は、ほとんどの外国と関係をもたない国（これを鎖国といいます。）でした。しかし、とつぜん、アメリカから黒船という大きな船に乗った使者がやってきて、外国と関係を持つようせまってきました。鎖国を続けたいという考えや、外国と関係を持ちたいという考えのほかに、国の政治を将軍ではなく、天皇に行ってもらうほうがよいという意見などがいろいろと出てきて、日本はとても混乱していました。

世界と日本の動き

世界の動向	
1861	アメリカ南北戦争（～1865）
1863	アメリカ大統領リンカーンが黒人奴隷解放宣言
1867	スウェーデンのノーベルがダイナマイトを発明
1877	アメリカのエジソンが蓄音機を発明
1895	ドイツのレントゲンがX線を発見
1896	第1回近代オリンピック競技
1897	ドイツのディーゼルがディーゼル機関を完成
1898	フランスのキュリー夫妻がラジウムを発見
1903	アメリカのライト兄弟が飛行機発明

日本の動向	
1867	大政奉還
1868	戊辰戦争が起こる
1871	廃藩置県が行われる
1877	**西南戦争が起こる**
1881	国会の開設を政府が約束する
1889	大日本帝国憲法が制定される
1891	足尾銅山鉱毒事件を田中正造が議会で取り上げる
1894	日英通商航海条約が調印される
1904	日露戦争が起こる

新しい時代、明治時代

いろいろな考えがでてきたことを受けて、江戸時代の将軍だった徳川慶喜が、天皇を代表とした政府に国の政治を行ってもらうことにしました。こうして江戸時代は終わり、新しく、明治という時代がはじまりました。これが「**明治維新**」という、日本を大きく変えたできごとです。この時に活躍したのが、**西郷隆盛**などの人々でした。

西郷 隆盛

薩摩藩出身の士族、政治家。西郷隆盛は、幕末の志士として、また明治維新の立役者として名を馳せた人物です。若いころは薩摩藩の政治活動等に奔走しますが、のちに坂本龍馬の仲裁のもと長州藩と薩長同盟を結び、倒幕に力を入れました。非常に人望が厚く、藩内外の人々から慕われていました。また明治天皇も、幼少期に西郷隆盛が教育係だったことから親しい間柄だったということです。各地に西郷隆盛に関するエピソードは多く残りますが、特に戦争で田畑が荒れ、住民の暮らしを壊してしまうことを心配していたということは、今も語り継がれています。西南戦争で総大将となり最後を遂げた後も、生存説が流れるほど“西郷さん”の人気は絶大なものでした。

西郷隆盛

西南戦争のはじまり

新しい政府への反発

将軍による政治が終わることで、武士は、それまでのような特別なあつかい（刀をもったり給料をもらったりすること）を受けられなくなり、生活が苦しくなりました。これに不満を持った武士たちは、日本各地で反乱※を起こし始めます。

※反乱　支配者などに武器をもって反対する行動をおこすこと。

西郷の辞職と薩摩軍の結成

明治維新で活躍した西郷隆盛は、明治時代のはじめには政治や軍事のリーダー的役割をしていました。しかし、1873（明治6）年に、政府の人たちと意見が合わなくなったことをきっかけに、辞職し、故郷の鹿児島に帰ります。このとき、西郷隆盛をしたっていた鹿児島出身の政治家や軍人も辞職し鹿児島に帰りました。彼らは故郷へ帰ると「**私学校**」という政治や軍事を学ぶ学校を作ります。

西南戦争は、この私学校の生徒たちが起こした明治政府に対しての反乱です。日本各地で政府に対する反乱が起こる中、生徒たちは、西郷隆盛をリーダーとして、明治政府のある東京へ抗議をしに行こうとしました。これが西南戦争の始まりです。

薩摩軍の出発

私学校の生徒たちは、薩摩軍と呼ばれました。彼らは、1877（明治10）年2月15日、50年ぶりという大雪の降る中、鹿児島を出発します。

その途中、薩摩軍は熊本城にあった政府の陸軍に手紙を出します。その内容は、「これから明治政府のある東京に行くため、鹿児島の兵士たちがここを通るので、通過できるようにしてほしい」というもの。しかし、熊本城にいる政府軍人**谷 干城**は、これを断り「武器を使っても薩摩軍を通さない」と答えました。

谷 干城

戦いの前に燃えた熊本城

谷 干城は、薩摩軍の兵力が強いことなどから、熊本城にたてこもって戦う作戦をとることを決めました。ところが薩摩軍がやってくる前日の2月19日、思いがけないことに熊本城内で火事が発生し、熊本城天守閣と本丸御殿が全焼してしまいます。火事の理由は今もなぞですが、戦いの気持ちを高めるために、わざと燃やしてしまったのではないかという説もあります。

現在の熊本城（現在あるお城（天守閣）は新しく建て直されたものです。）

熊本城行幸橋際にある加藤清正像

熊本城総攻撃が始まった

2月22日朝、薩摩軍は、天守閣などが燃えた熊本城内に立てこもる政府軍に、総攻撃を開始します。その攻撃は激しく、はじめ熊本城はそれほど長く持ちこたえられないだろうと思われました。しかし、西南戦争より約270年も昔につくられた熊本城は、簡単に攻め落とすことはできませんでした。この城は戦国時代の武将・**加藤清正**によって造られたもので、敵が攻めてきたときのことを考えて非常に頑丈に造られていました。苦戦した薩摩軍は一部の部隊に熊本城を包囲させ、残りの主力部隊は東京を目指すことにします。

こうして、戦いは、熊本城から、植木、玉東、玉名、山鹿へと移ることとなったのです。熊本城ではその後、54日間、耐え抜きました。戦いに負けた西郷隆盛は、「自分は、加藤清正と戦って負けたようなものだ」と語ったと伝えられています。

なぜ植木・玉東が戦場となったのだろう

熊本と福岡を結ぶ道の上に、植木と玉東はあった

熊本市北区植木町と玉名郡玉東町は、福岡と熊本を結ぶ道の途中にあるため、福岡を通って東京へ向かいたい薩摩軍と、熊本城を救いに向かいたい政府軍が通らなければならない場所でした。また、植木の田原坂や玉東の吉次峠は、軍事や交通のうえで大切な地点で、他に大きな道がなかったので、ここで政府軍と薩摩軍が争うこととなったのです。

植木向坂の戦い（マップ:D-3）

政府軍が、薩摩軍に軍の旗を奪われる

乃木希典

熊本城を救うために政府は、**乃木希典**少佐が率いる第十四連隊を向わせます。

第十四連隊が薩摩軍と最初に戦ったのは植木の向坂でした。薩摩軍はとても激しく攻めたので、乃木少佐はひとまず退却を決断します。ところが軍の旗をもって戦っていた河原林雄太少尉がおらず、旗が薩摩軍に奪われてしまったことに気づきました。

軍の旗を奪われることは、軍人にとって大きな恥です。乃木少佐は、西南戦争が終わった後もずっと、この軍の旗を奪われた悔しさを忘れませんでした。

植木エリア

千本桜·乃木大将記念碑

河原林少尉戦死の地

玉東 木葉の戦い（マップ:A-1）

苦戦する政府軍

玉東エリア

乃木少佐奮戦の地

植木の向坂での戦いの次の日、政府軍第十四連隊はふたたび薩摩軍と激しく戦います。この時の薩摩軍の攻撃はすさまじく、政府軍はさらに玉名の方へ退却することとなります。この時、指揮をしていた乃木希典少佐は薩摩軍兵士に襲われ、危機一髪のところを部下に助けられます。

こうして第十四連隊は一旦退却しますが、玉名に来た応援部隊と共に戦い、3月3日ついに木葉を占領することに成功します。

植木 田原坂・玉東 二俣の戦い

（マップ:B-1）（マップ:B-2）

3月4日、いよいよ田原坂の激戦が始まった

木葉の町を占領し本営（基地）を置いた政府軍は、そこから田原坂に陣取った薩摩軍への攻撃を開始します。この日から田原坂での17日間の戦いが始まりました。

田原坂は、熊本城に行くためには通らなければならない道です。しかし、田原坂の地形は守る側に有利な地形です。どんなに政府軍が多くの兵隊や銃を使って通ろうとしても、薩摩軍の攻撃には勝てません。また、薩摩軍の武士たちは剣術が非常に強く、政府軍は太刀打ちできませんでした。

現在の田原坂（植木）
当時の道路は、今のように舗装整備されていませんでした。そのような中、たくさんの軍隊の移動と大砲を運ぶためには、田原坂を通る必要がありました。田原坂は、細いくねくねと曲がった坂道です。道の両側が高くなっており、高いところから狙い撃ちされると、上ってくる敵はひとたまりもありませんでした。

豊岡眼鏡橋（植木）
昔とあまりかわらない姿で残っている石橋です。熊本の年代のわかる石造のめがね橋の中では最も古いものと言われています。この橋の幅が当時の道の幅と言われています。

弾痕の家（植木）
植木町田原坂資料館横にある、西南戦争当時の被害にあった家を模して造ってあります。私たちのふるさとに住んでいた人々もこの戦争に巻き込まれ、逃げた人も多くいましたが、家を壊されたり、財産を奪われたり、無理やり戦うのを手伝わされた人たちも数多くいました。

空中かちあい弾
「空中かちあい弾（行合弾）」といわれるものがあります。あたかも二つの鉛の弾が空中でぶつかったかのように、お互いがめり込んで一つになっているものです。田原坂の戦いでは、1日平均32万発も使用されたと言われています。

田原坂を道の正面から攻めるだけでは負けてしまうと考えた政府軍は、別の作戦をたてます。田原坂の植木台地と小さな谷をはさんで玉東町二俣台地があり、そこから大砲で攻撃する作戦です。政府軍は二俣台地の瓜生田と古閑というところに大砲を置き、毎日攻撃をしました。その音はまるで雷が落ちるようだったといいます。猛烈な大砲での攻撃に、薩摩軍の勢いは徐々に弱まっていきました。

二俣瓜生田砲台跡の発掘調査（玉東）
二俣瓜生田砲台跡の発掘調査では、大砲が置かれた跡が見つかっています。

政府軍と薩摩軍の違い

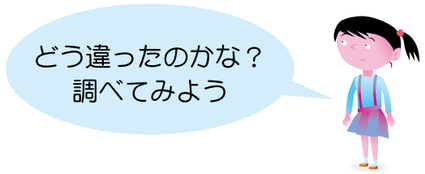
薩摩軍

政府軍

薩摩軍は「一に雨、二に赤帽（政府の近衛兵）、三に大砲」が苦手だと嘆いたそうです。その原因は、服装や武器弾薬などの装備、食べ物の質や量の違いにあったということです。

薩摩軍の食事

政府軍の食事



写真提供:田原坂資料館

玉東

吉次峠の戦い（マップ:B-3）

「地獄峠」と呼ばれた吉次峠

政府軍が熊本城へ向かうために、田原坂のように、大砲は通れませんが、軍隊は通ることができる道がありました。それが、**吉次峠**です。この吉次峠を越えようと、玉名の方からやってきた政府軍を、薩摩軍が迎え撃ちます。10万発以上の弾丸が飛びかい、先に吉次峠を守っていた薩摩軍の攻撃に、政府軍の兵士200人以上が命を落としました。その後、政府軍兵士はこの吉次峠を「地獄峠」と呼び、近付くことさえ恐れました。

薩摩軍も、大きな痛手を受けた

吉次峠で勝った薩摩軍ですが、薩摩軍の大隊を指揮していた**篠原国幹**という人が撃たれて戦死してしまいます。旧薩摩藩士だった篠原国幹は軍人として大変勇敢な人で、吉次峠でも、隊長である自分が、マントを着て太刀を持った勇ましい姿で先頭に立つことで、兵士たちを勇気づけようとします。この時、政府軍の中に、篠原国幹を見知っている江田少佐という人がいました。彼は射撃兵※を呼び、「マントを着た人物を撃て」と命令し、篠原は撃たれて亡くなりました。西郷隆盛はその遺体のそばで涙を流したと伝えられています。

篠原国幹

※射撃兵　離れた場所から敵を撃つ兵。

篠原国幹戦没の地（玉東）

吉次峠戦跡・公園（玉東）

玉東

横平山の戦い（マップ:B-2）

横平山戦跡・公園（玉東）

奪い合いが繰り返された横平山

田原坂がよく見える横平山は、両軍にとって守備をするうえでとても大事な場所でした。この山を手に入れるために、3月9日～15日にかけて激しい奪い合いが繰り返されました。

最も激しい戦いがあったのは3月15日です。その日、政府軍が守備していた横平山を、薩摩軍の精鋭部隊がおそいます。この山を薩摩軍に占領されることを恐れた政府軍は、田原坂方面の兵などたくさんの兵をここに集中させます。しかし、激しい銃撃戦の中なかなか攻め落とすことができません。そこで、南関からかけつけた**警視抜刀隊**が薩摩軍に刀での切り込み攻撃を行い、やっと横平山は政府軍のものとなりました。

田原坂、ついに政府軍が占領

田原坂の最後の戦いは、3月20日でした。政府軍は、兵士を集め、薩摩軍が守る田原坂を、3カ所から一気に攻撃をしかけました。雨で周りが見えにくかったこともあり、薩摩軍は負け、退却しました。こうして数え切れないほどの戦死者を出した田原坂の戦いは終わりました。しかしその後も薩摩軍は抵抗し続けます。

戦争に巻き込まれた植木・玉東

住民もまきぞえになった

西南戦争で、平和な暮らしが壊されてしまったのが、植木・玉東の住民たちでした。流れ弾に当たるなどして、多くの住民が命を落としてしまったのです。また、多くの家が焼かれてしまいました。政府軍や薩摩軍が、進撃、または退却する時に、敵が隠れないように村の家々に火をつけたといわれています。

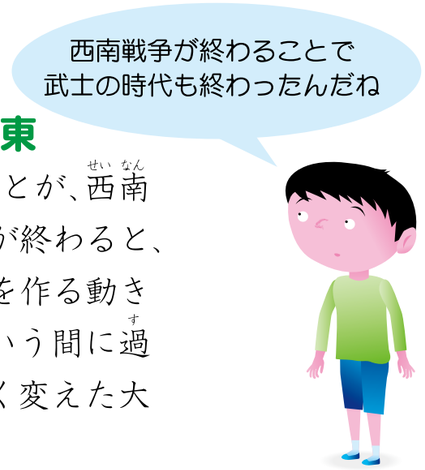
植木・玉東の住民は、人の死を目の当たりにし、家や財産だけでなく、家族まで失うという大きな損害を受けました。

西南戦争の終わり

田原坂や吉次峠などでの戦いに負けた薩摩軍は、追ってくる政府軍との戦いを続けながら鹿児島に戻りました。政府軍は、薩摩軍が立てこもった鹿児島市にある丘、**城山**を取り囲みます。この時、薩摩軍の兵士の数は、400人ほどに減っていました。

西郷隆盛や薩摩軍の兵士は、弾を避けるため城山の洞窟にこもり、抵抗を続けますが、政府軍の一斉攻撃がはじまり、多くの兵士が銃弾に倒れました。西郷隆盛も洞窟を出たところを、弾を受けて傷つき「もうこのへんでいいだろう」と自害※しました。西郷隆盛51歳でした。こうして明治10年9月24日、薩摩軍は城山で全滅し、西南戦争は終わりました。

※自害　自分の命を終わらせること。



日本の歴史を変える場所となった植木・玉東

植木・玉東の一帯で薩摩軍が政府軍に敗れたことが、西南戦争の勝敗を決めることとなりました。西南戦争が終わると、各地の武士の反乱も治まり、明治政府の新しい国を作る動きは早まります。田原坂は、今は車で通ればあっという間に過ぎてしまう場所です。しかし、日本の歴史を大きく変えた大切な場所だということを忘れてはいけません。

高月官軍墓地（玉東）

七本官軍墓地（植木）

西南役戦没者慰霊之碑※（植木）

※慰霊　死者の霊をなぐさめる。

その後の日本はどうなったのだろう

その後の日本の動き

政府軍、薩摩軍出身者はその後の日本にどうかかわっていったのだろう

西南戦争は、その後の日本に大きく影響しました。この戦争で新政府は、作戦に必要な経験や知識を得ることになりました。また、武器を使わない言論で主張する方法で、政治を変えていこうとする動きも始まりました。

西南戦争により、西郷隆盛を始め、明治維新で活躍した多くの人たちが亡くなりましたが、生き残った人々は、**近代化**※を進める政府の役職で活躍したり、軍人として、その後の日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦などに関わっていきました。

※近代化　これまでの習慣を変え、科学的で理屈にあったものに変えること。

日本赤十字社※の原点「博愛社」の起こり

佐野常民は、西南戦争で傷ついた人が多くいることを伝え聞くと、「敵や味方に関係なく助ける」という考えを政府に申し出ます。しかし、敵を助けるという考え方は当時なかなか理解されませんでした。そこで、ジューンズ邸で指揮をしていた有栖川宮熾仁親王に直接申し出、やっと許可をもらい、木葉の大繃帯所※に日本赤十字社の前身「博愛社」を置いたといわれています。

※赤十字の精神　人間が人間らしく生き、平和で健康な暮らしをするために、国や人種をこえてあらゆる努力を尽くすという考え。
※大繃帯所　戦闘で負傷した兵士を収容し、手当てする施設。

正念寺（玉東）
木葉の大繃帯所の一つ。門には弾痕が残っている。

徳成寺（玉東）
木葉の大繃帯所の一つ。本堂は当時のまま。

ジェーンズ邸（熊本市）
当時は熊本城内にあり有栖川宮が指揮をとっていた。

私たちにできること

植木・玉東地域には、西南戦争のあった場所や、使われたものが多く残っています。それらは、むかしのことを知るためのもので、**文化財**とよばれ大切なものです。私たちの今の暮らしが戦争で犠牲になった人々のおかげで成り立っていることを考えてみましょう。そして、植木・玉東の文化財を詳しく調べたり、またこれからもずっと残していくために何ができるか話し合ってみて下さい。

調べるときに役立つ場所

熊本市植木文化センター・玉東町中央公民館

市役所、町役場にはいろいろな部署があり、それぞれ詳しい人たちがいます。教育委員会には地元の文化財や歴史などの情報が集まっています。

歴史資料館

植木や玉東地域の歴史資料を集め、守っているところです。昔使われていた物や関係資料を見ることができます。（植木町田原坂資料館）

図書館

いろいろな見方で書かれた西南戦争の本や、戦いに関わった人物の資料、詳しい歴史などを読むことができます。

博物館

博物館には展示や保存だけでなく、専門の人たちが調査・研究しています。研究の新しい情報などもあり、より詳しく学ぶことができます。（熊本市立博物館）

西南戦争の歴史を伝えていく取り組み

郷土伝承

西南戦争の激戦地として知られる田原坂に近い田原小では、田原坂ボランティア清掃や郷土伝承クラブの「田原坂剣舞」等の活動を通して、郷土の歴史を大切に受け継ぐ取り組みが行われています。

西南戦争の遺跡を保存する取り組み

熊本市北区植木町と玉名郡玉東町では、西南戦争の戦いの遺跡を調べ、守って大切にするための取り組みを行っています。

西南戦争に関係する人物

政府軍

有栖川宮熾仁親王	西南戦争では政府軍の総司令官である征討総督に就いた。玉東町の丸田公園は、有栖川宮熾仁親王が戦いを見て陣頭指揮をした場所。
大久保　利通	薩摩藩（鹿児島県）出身。政治家。西郷隆盛とともに江戸時代の終わりから明治時代の政府で活躍した。外国で政治や文化について学び、新しい制度をつくることに力を尽くした。西南戦争では、明治政府側につき、西南戦争後、政府に不満を持つ人物によって暗殺された。
谷　干城	土佐藩（高知県）出身。明治政府の軍人。西南戦争では熊本城にこもって薩摩軍と戦い、2ヵ月間持ちこたえた。西南戦争後は、政治家として活躍した。
乃木　希典	長州藩（山口県）出身。明治政府の軍人。西南戦争では政府軍の第十四連隊の指揮官として戦った。連隊旗を敵に奪われ、それを苦に明治天皇が亡くなった時に自害した。
河原林　雄太	西南戦争の際、政府軍第十四連隊の乃木少佐の下で連隊旗手（旗を持つ係）をつとめる。植木の向坂の戦いで戦死。連隊旗を奪われた。

薩摩軍

篠原　国幹	薩摩藩（鹿児島県）出身。明治政府の軍人をしていたが、西郷隆盛をしたい鹿児島へ帰り、私学校で銃の指導者となる。西南戦争では薩摩軍一番大隊長として戦い、熊本城を攻撃。玉東町原倉で敵の弾に当たって戦死。
村田　新八	薩摩藩（鹿児島県）出身。幼いころより西郷隆盛に従い、西南戦争では、薩摩軍二番大隊長として戦った。城山にて西郷らとともに自害。
桐野　利秋	薩摩藩（鹿児島県）出身。明治政府の軍人をしていたが、西郷隆盛にしたがい鹿児島へ帰り、私学校で指導者となる。西南戦争では薩軍四番大隊長として戦った。実質的には薩摩軍の指揮をとり、城山で西郷らとともに自害した。
佐々　友房	肥後藩（熊本県）出身。明治時代の教育者、政治家。西南戦争では薩摩軍熊本隊の一番小隊長として吉次峠を守った。薩摩軍について宮崎まで逃げるが降伏して政府軍に捕まる。西南戦争後、政府によって監獄にいれられたが、出所した後は、濟々黌高校や熊本日日新聞社の元を作った。政治家としても活躍した人物。

田原坂、横平山、半高山（吉次峠）戦闘鳥瞰（ちょうかん）想像図

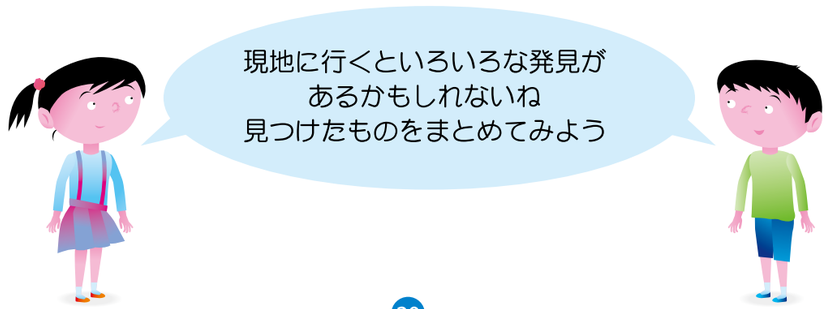
熊本城
植木
向坂
三ノ岳
千本桜
木留
半高山
吉次峠
七本
横平山
田原坂
三の坂
二の坂
二俣台地
一の坂
豊岡橋
木葉川
中谷川

植木遺跡一覧（表中の番号はP1～P2のイラストマップの番号と一致）

❶豊岡眼鏡橋から ❷一の坂 二の坂 三の坂への道	この坂道を中心とした一帯が激戦の舞台となった。[国指定史跡]
❸谷村計介之碑	政府軍の谷村計介は、薩摩軍に包囲された熊本城を抜け出し、政府軍と連絡をとるという任務を果たした。その後、田原坂の戦いで戦死した。
❹田原坂公園 ・植木町田原坂資料館	今ではツツジや桜の名所として知られる美しい公園。園内には、激戦の跡が残る弾痕の家（復元）や資料館が建ち、当時の戦いを知ることができる。
❺七本柿木台場薩軍墓地	戦死した薩摩軍や熊本隊の兵士が眠る薩軍墓地。
❻七本官軍墓地	田原坂の戦いのあと、植木や吉次・木留などで戦死した政府軍およそ300人が眠っている。[県指定史跡]
❼山県有朋歌碑	政府軍として戦った山県有朋の歌が刻まれている。
❽辺田野熊野座神社	神社境内には、乃木少佐が負傷した時よんだ詩碑がある。
❾薩軍本営跡 ❿熊本隊本営跡 ⓫薩軍病院跡	薩摩軍の本営と薩摩軍病院がおかれていた場所。また当時薩摩軍とともに戦った熊本熊の本隊の本営もあった。
⓬荻迫柿木台場 ・薩軍美少年の墓	薩摩軍として戦った若者を弔う句が刻まれている。
⓭山頭遺跡	政府軍と薩摩軍が至近距離で激しい銃撃戦をおこなった遺跡。
⓮向坂官軍墓地 ⓯河原林少尉戦死の地	河原林少尉が、命を落とした場所。この際、薩摩軍に軍旗が奪われた。
⓰千本桜 ・乃木大将記念碑	政府軍墓地のほか「河原林少尉戦死の碑」が残る。また、この戦闘で乃木連隊が撤退した千本桜の地には「乃木大将記念碑」がある。
⓱植木天満宮	向近一帯の激戦が始まった地。
⓲薩軍弾薬庫跡	薩摩軍の植木での拠点となっていた寺。弾薬庫はこの西寺にあった。

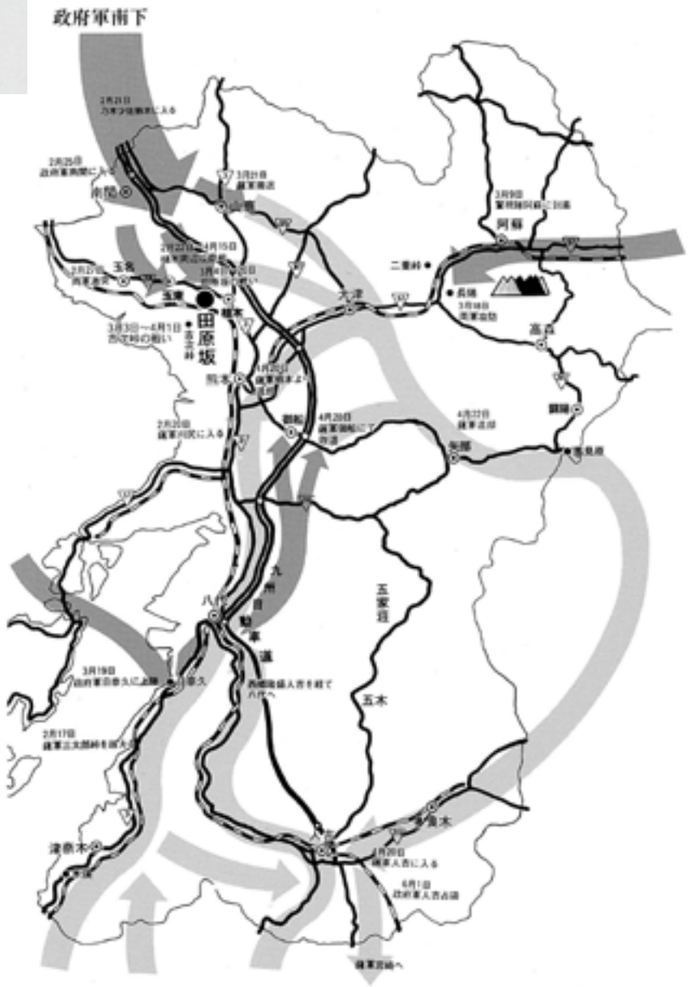
玉東遺跡一覧（表中の番号はP1～P2のイラストマップの番号と一致）

⓳宇蘇浦官軍墓地	政府軍、抜刀隊として参加した警視局巡査たち399人の戦死者を葬っている墓地。吉松秀枝少佐や、武勲で有名な谷村計介の墓もある。[国指定史跡]
⓴有栖川宮督戦の地	ツツジの花が美しい公園。陸軍大将・有栖川宮熾仁親王が田原坂攻略戦の戦跡を見て廻られた地であり、記念碑が建立されている。[町指定史跡]
㉑上木葉官軍本営跡	田原坂占領の頃まで政府軍の本営として使用された。
㉒正念寺・㉓徳成寺	西南戦争で負傷した兵士を治療した政府軍病院跡で、当時のままの正念寺の山門には弾痕が残る。日本赤十字社のはじまりとされる“博愛社”が置かれたと伝わる。[㉒国指定史跡]
㉔二俣瓜生田官軍砲台跡	田原坂攻撃のために設置された砲台。近年の発掘調査で、大砲の通った跡が確認された。[国指定史跡]
㉕横平山戦跡（公園）	横平山は、政府軍・薩摩軍の激しい奪い合いが行われた。山頂には陣地の跡が残っており激しい戦いを物語っている。[国指定史跡]
㉖半高山戦跡（公園） ㉗吉次峠戦跡（公園）	最も激しい戦闘が行われた場所のひとつ。吉次峠は”地獄峠”と恐れられた険しい場所で、両軍の間に激しい戦いが行われた。[国指定史跡]
㉘篠原国幹戦没の地	薩軍一番大隊長篠原国幹は、吉次峠で薩軍を指揮し先頭に立って戦い戦死した。
㉙薩軍三勇士の墓	薩摩軍兵士と思われる３人が葬られている。負傷した３人は玉東町の民家で手当てを受けるが、その甲斐なく亡くなりこの地に葬られた。
㉚乃木希典奮戦の地	木葉の戦いで苦戦し、ついに退却した乃木少佐は薩摩軍に襲われて落馬。九死に一生を得て木葉川を渡り、その後、隊をたてなおした。
㉛高月官軍墓地	政府軍の軍人・軍夫が眠っている。その多くは大阪、東京、広島、名古屋、熊本などの部隊者が多い。西南戦争の激戦地であった、田原坂・吉次峠・二俣・横平山などで戦死した人々の墓地。[国指定史跡]



西南戦争激戦の軌跡

熊本県下激戦の軌跡



年表　西南戦争の動き

年 月 日	動 き
明治　6年 10月 23日	西郷隆盛、征韓論に敗れ、辞表提出。桐野、篠原ら西郷派士官辞職
11月 10日	西郷、桐野とともに鹿児島へ
明治　7年 2月 4日	「佐賀の乱」起こる
明治　9年 10月 24日	熊本で「神風連の乱」起こる
10月 27日	福岡で「秋月の乱」起こる
10月 28日	山口で「萩の乱」起こる
明治 10年 1月 29日	私学校党、鹿児島で武器・弾薬の奪還
2月 15日～17日	西郷、桐野、村田ら鹿児島をたつ。兵13, 000人
2月 18日	政府軍　乃木希典（陸軍少佐）第十四連隊の一部を率いて熊本に向かう
2月 19日	熊本城炎上　～21日まで市街延焼
2月 20日	薩摩軍の先鋒、別府晋介の二大隊川尻に入る
	民権党（40数人）保田窪神社へ結集、熊本協同隊結成
2月 22日	植木で乃木少佐、連隊旗を奪われる。薩摩軍、熊本城を包囲完了
2月 23日	政府軍第十四連隊、木葉にて敗れる
2月 24日	山県参軍博多に到着　薩摩軍熊本城強攻を中止、主力は山鹿、田原、木留に進出
2月 25日	政府軍第一、二旅団南関に入る・高瀬の戦い
2月 27日	薩摩軍三方より高瀬を強襲、西郷小兵衛戦死　乃木少佐負傷
3月 3日	政府軍、木葉・吉次に攻撃を開始
3月 4日	田原坂の攻撃開始～3月20日　田原坂・二俣の戦い
	薩摩軍一番大隊長篠原国幹、玉東町原倉六本楠で戦死
3月 19日	高島鞆之助の別働第二旅団、船で日奈久に上陸
3月 20日	政府軍、田原坂を占領
3月 26日	薩摩軍、石塘口をせき止め、熊本城を水攻めにする
4月 1日	政府軍、吉次・木留を占領
4月 12日	政府軍、御船を占領、永山弥一郎（薩摩軍三番大隊長）戦死
4月 14日	政府軍、熊本城入城
4月 15日	薩摩軍、植木・荻迫・鐙田・三ノ岳より退却
4月 20日	政府軍、御船で大勝　薩摩軍、矢部に退却。22日西郷らは人吉へ退却
5月 28日	西郷、宮崎へ入る
6月 1日	政府軍、人吉を占領
7月 31日	政府軍、宮崎佐土原を占領
8月 2日	政府軍、高鍋を占領
8月 14日	政府軍、延岡を占領
8月 16日	西郷、解隊布告
9月 1日	西郷ら、鹿児島に入る
9月 22日	城山で西郷の命による決死の抵抗
9月 24日	政府軍、城山を総攻撃。西郷、桐野、村田ら戦死す　西南戦争終結

発　行／平成23年12月改訂・第2刷 平成24年6月・第3刷 平成25年8月
第4刷 平成26年8月・第5刷 平成27年8月
編　集／植木町・玉東町西南戦争遺跡群連携保存活用協議会
発行元／玉東町教育委員会